



発行者

島根県健康福祉部

医療政策課医師確保対策室

## 今回の紙面

- ◆地域医療最前線 NO. 46 《木谷光博 院長》 ◆看護師さんのページ NO. 26 《湯浅珠美さん》
- ◆研修医のページ NO. 29 《天野芳宏 先生》 ◆総合医・家庭医育成ネットワーク
- ◆地域枠等入学生歓迎会 ◆島根県医療従事者支援担当者研修会 ◆医学生・研修医へのPR



NO. 46

益田赤十字病院

院長 木谷 光博



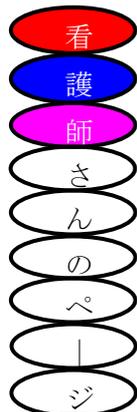
地域医療の崩壊が叫ばれてから随分経ちます。当院も常勤医49

名体制から現在は38名(最低時34名)と減少しており、日々の診療に障害が生じています。この間全国の医師数は着実に増加しているのに何故でしょうか。地域医療の崩壊とは地域の病院勤務医の減少の事を言っているのですが、マスコミ・世間一般の人たちは医師数自体が減っているような錯覚を持ち、国策として医師数を増やせば解決するかのような幻想を持っています。

島根県の場合、新臨床研修制度が開始されてから地域での病院勤務医が激減したことは間違いがない事実です。地方の医療を充実させる目的で、一県一医大が実現しました。それなりに地方での医療が充実しつつあった時、平成16年新臨床研修制度が始まりました。それ以来地方国立大出身の研修医の多くが都会に流れていき、大学への

入局者が激減したと聞いており、非常に残念に思っています。一県一医大構想は、医学部からの医師派遣により、地域医療の充実と医師のスキルアップを担保するものであったはずですが、医学部を頂点とした医療の構築が地方では必要不可欠なシステムであることを再認識する必要があります。緒方洪庵は、「医の世に生活するは人の為のみ、唯(ただ)おのれをすて、人を救はんことを希(ねが)ふべし」「為道為人(道のため人のため)」「為国為道(国のため道のため)」と言っています。医師が社会的に尊敬されている理由は何かを考えると、この言葉が正鵠を射ています。医師を志した原点はなにか? 自分のキャリア・収入の事のみ考え行動することは必ず将来に満足感を得ることなく、延いては医師という職業の社会的な尊敬も失うことになると思います。最近ではワークライフバランスが流行り言葉になって、精神論は嫌われています。しかし、本当にそれでよいのでしょうか。医療を単なる生業にしてよいのでしょうか?

述べられています。義務感がある医の心を持った若い医師の養成こそ今後の医師養成に必要であろうと思います。本年初期研修医を2名迎えることが出来ました。最後に、地域医療の楽しみは、自分たちが必要とされているという実感・存在感です。夢はこれからも頼りにされる存在であり続けたいということです。当院は職員全員が医療を楽しみ夢が持てるような病院を目指し頑張っています。

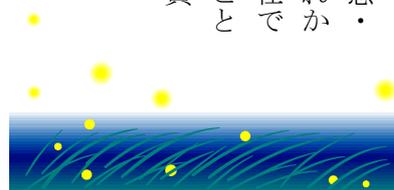


NO. 26

安来市立病院

看護部長 湯浅珠美

安来市立病院は、診療科14科(非常勤診療科を含む)、病床数199床(一般病棟・151床・療養病棟・48床)の病院で、地域医療拠点病院、救急告示病院としての機能を果たしています。救急医療については、安来市全体の救急搬送患者の約65%を受け入れており、この事は、平成23年度に認定された病



院機能評価でも高い評価を受けました。

現在の看護職員数は約130名で、平均年齢は39歳のベテラン看護



師が多い病院です。新人看護師は5年間入職者がありませんでしたが、今年度は2名採用しました。新人指導は各部署での綿密な指導に加えて、当院で経験できない知識や技術については、島根大学のクリニカルスキルアップセンターや島根県看護協会主催の研修会、また、同じ自治体病院である松江市立病院看護部の協力等を受けながら計画・実施しています。新人看護師を受け入れた当該部署では、新人の受入れが部署の活性化や学習の機会となり非常に喜んでいきます。また、新人からは「小さな病院で指導体制に不安はあったがとても充実しており、また、新人が少ないので大切に育ててもらっている。この病院に就職して良かった」との声を聞いています。その他、医師や他部門の職員から「新人がいると良いね・・・」との声も聞かれており、病院

全体に新風を吹き込んでいます。

当院には現在2名の認定看護師(糖尿病看護、皮膚・排泄ケア)がいます。が、今年度の認定看護師の新たな取り組みに「皮膚・排泄ケア認定看護師(以後・WOCN)」の活動があります。今回の診療報酬の改定に伴い、WOCNが患者さまの自宅を訪問し、訪問看護ステーションの看護師と共に患者指導を行う事に加算が付くようになりました。当院では先日第1例目を経験し、私もWOCNに同伴して自宅訪問を行いました。WOCNは、患者さまの退院後の生活環境や生活状況、また、退院時のケアが継続されているかなどについて、訪問看護ステーションの看護師やご家族の話等をもとに自分の目で褥瘡の状態を確認し、現在の状況に合わせたケア方法について丁寧に指導を行っていました。そして、患者さまのご家族にも非常に喜んでいただき、私も診療報酬の算定よりも良い看護を提供し、地域の皆様に喜んでいただけたことに満足感を覚えました。

今後自己研鑽を積みながら、安来市の中核病院として他の医療機関との連携のもとに、当院の理念である「人を大切に、良い医療・やさしいケア・安心を提供できる病院」を目標に看護を実践していきたいと思えます。



のページ

NO. 29

国立病院機構 浜田医療センター

2年目研修医 天野芳宏



2年間、国立病院機構浜田医療センター(以下「当院」)にて初期研修医として勤務させていただきます。現在当院には

計10名の研修医がいますが、今年度は全員が男性ですので、いささか医局は暑苦しくなっております。新しく入ってきた1年目の先輩たちは、最初は右も左もわからなかったのに、日に日に知識や技術を身につけていきます。その姿を見ると、「自分もそうだったのかなあ」と感じると同時に、そんな先輩たちに追い越されぬよう、2年目として研修に精が出る毎日です。明らかに現時点では2年目研修医のほうが現場に「慣れて」いるのですが、自動車の運転でも、免許取りたての人より初心者マークが外れた頃の方が大きな事故を起こしやすい、と聞きます。1年間の経験が自信には繋がったとしても、過信には陥らないように気をつけなければならぬと感じています。

と、並みの心構えはしているつもりですが、じつは学生時代の私は決して医学に対し勤勉な生徒ではありませんでした。自分が医者として働くイメージがうまく浮かばなかったからです。免許を取得してからでしか行えない「医療」という行為に対し、周りの同級生たちはよくそこまで興味を持てるものだなあとさえ考える始末だったのです。学年が上がり病院実習が始まった後も、さほど変化はなく、いかに先生のご機嫌を損ねないかに神経を使っていた気がします。

不安定な気持ちを引きずったままながらも、医師になればなにか変わるはずだ、と希望を持っていました。医師免許を取得し、当院で勤務するなかで多くの患者さんとお会いし、時に喜ばれ、時に悲しまれ、少し「医療」というものに触れることができました。私はいま、大学受験や医師国家試験のときよりも切実に、医師になりたいと感じています。このような気持ちになれたのは、患者さんとの関わり以外に、石黒院長をはじめとする当院の諸先生方、各スタッフの皆様のおかげだと感じています。

これからもここ島根で少しでも医療を通じて人とかわることが出来れば嬉しく思います。島根県内の諸先生方、

医療スタッフの皆様、今後ともご指導  
よろしくお願い致します。

## 総合医・家庭医育成ネットワーク

代表世話人 谷口栄作

平成23年度に総合医・家庭医育成ネットワークを構築し、今年度から事務局を県から島根大学医学部地域医療支援学講座に移し、キャリア形成等の支援に取り組んでいます。

島根では各診療科の専門医はもちろんですが、総合的な診療能力を有し、プライマリ・ケアを実践できる、医師も求められています。この育成には、大学、基幹病院のみならず、地域の中規模病院、診療所、医師会、行政等が協力し、地域に根ざした取り組みが必要であり、オールしなねでの取り組みを進めようとしています。

6月16日には、浜田医療センターを会場に、県内の家庭医療専門医後期研修プログラムのブラッシュアップ講習会を開催しました。岡山家庭医療センター奈義



ファミリークリニック所長松下明先生を講師にお招きし、家庭医育成のノウハウや患者中心の医療の実践について具体的な取り組みを聞きました。また、今年度リニューアルされた浜田市国民健康保険診療所連合体を中心とした後期研修プログラムについて報告していただきました。当日の参加者は、病院、診療所、医師会、保健所、県や市など様々な立場の先生や事務職の方、学生等23人で、貴重な意見交換の場となりました。

県内の総合医・家庭医育成体制はまだまだ発展途上ではありますが、その充実に向け着実に前進していきたいと考えています。

9月15日には、第二弾として雲南市立病院を会場に、ブラッシュアップ講習会を開催する予定です。この講習会では、江別市立病院（北海道）の阿部昌彦副院長を講師にお迎えし、総合診療能力の向上のためのノウハウを皆で考えていきたいと思っております。今後、関係者の皆様の御協力をいただきながら、育成体制をさらに充実させていきたいと考えておりますので、よろしくお願ひします。興味をお持ちの方は是非ご連絡ください。（連絡先：島根大学医学部地域医療支援学講座 0853-20-2558）

## 地域枠等入学生歓迎会



4月6日（金）に島根大学医学部の新入生歓迎会が開催され、今春入学した地域枠、緊急医師確保対策枠、県内定着枠、学士

地域枠の入学者24名が参加し、軽食をとりながら、大学や県の関係者、先輩学生などと意見交換を行いました。

この会は、地域医療への関心を深めるとともに、円滑な学生生活を送るための支援の一環として昨年から開催されています。

まず、島根大学医学部長、附属病院長、島根県健康福祉部次長らから歓迎の言葉とともに、「学生生活を通じて地域への愛着を育んでほしい」といった要望もありました。

先輩学生からは、勉強面だけでなく、規則正しい生活リズムを送ることの重要性や食生活の注意点などが話されました。中でも、「勉強で苦しいときには、励まし合って、一緒に乗り越えていく友人がとても大切」といった話があり、先輩から後輩への温かい気遣いが感じ

られました。

新入生の自己紹介では、医師を目指した理由や「医師になって島根の地域医療を支えたい」といった熱い意志表明が一人ひとりからあり、大変心強く感じました。

県としても、引き続き大学をはじめ関係機関と連携して医学生の方々の支援を行っていききたいと思っております。新入生の皆さんには、勉強やサークル、アルバイトなど、島根県で充実した大学生活を送っていただき、しまねの医療を支える医師となられることを期待しています。

【医療政策課 岸】

## 島根県医療従事者支援担当者研修会

働きやすい医療現場の実現を目指すた研修会が、4月19日初めて出雲市内であり、県内の医療行政職員、医療機関の事務職員、ワークライフバランス支援担当者など約40名が参加しました。この研修会は、『しまね地域医療支援センター』事業の一環で、県が認定する地域医療支援コーディネーターも参加しています。

基調講演では、「女性医師支援から学

ぶ／みんなが働きやすい職場環境づくり」と題し、帝京大公衆衛生大学院の野村恭子准教授から先進的な取組みを学びました。この中で野村先生は、女性医師の継続就労を妨げる要因として、医師という資格職でも男女で家事労働時間が異なり、女性の社会的役割が大きいことを指摘。仕事と生活を両立する環境を提供する必要があること、自分に合った働き方の提案やキャリア構築のための相談支援などの必要性を説明されました。



研修会終了後、講師を囲んで

近年増加傾向にある女性医師にとって働きやすい職場づくりは、男女を問わずワークライフバランスの実現につながるという考えのもと、女性医師がその能力を發揮しやすい環境整備を着実に進める必要があると思われました。

さらに研修会では、参加者が4つのグループに別れて職場環境整備についての意見交換の場もあり、熱心な討論がなされていました。

7月10日から11日には、同様の趣旨で、ワークショップを開催します。気付いたところ、意識した人から改革を進めていけるよう、魅力ある病院づくり、地域づくりにいろいろな角度から取り組む必要があります。県内の関係者が刺激し合って改善していく体制ができていくと良いと思います。

【医療政策課 藤井】

### 医学生・研修医へのPR

5月18日（金）、出雲市の島根大学

医学部において、島根県臨床研修病院連絡会議が開催されました。県内の各臨床研修病院（松江市立病院、松江生協病院、松江赤十字病院、島根県立中央病院、島根大学医学部附属病院、浜田医療センター、益田赤十字病院）及び県が一堂に会し、7月に開催される出展イベント（レジナビフェア、しまね研修



レジナビフェアの様子

ナビ）について意見交換しました。

『レジナビフェア』は、民間会社が主催する研修病院合同説明会で、全国から多数の医学生及び研修医が来場します。今年は、大阪府のインテックス大阪と東京都の東京ビッグサイトで開催されることとなり、昨年度に引き続き県内の各臨床研修病院と県の合同による「島根県臨床研修病院群」としてブース出展します。ブースの中に病院ごとのコーナーを設け、指導医の先生や研修医の方々等が来場者に対して病院案内や研修プログラムの説明等を行います。

『しまね研修ナビ』は、島根大学医学部主催による初期・後期臨床研修プログラムの説明会で、島根大学医学部6年生や初期研修医、全国の初期・後期研修医などを対象としており、島根大学医学部看護学科棟で開催されます。こちらへも県内の各臨床研修病院及び県が参加して、病院ごとに個別にブースを構え、研修プログラムの説明等を行います。

これらのイベントを通じて、一人でも多くの医学生や研修医の方々に島根県内の病院に興味を持っていただけるよう、各臨床研修病院及び県が一体となって「オールしまね」でPRに取り組みます。【医療政策課 池田】

#### 島根県で勤務していただける方を紹介してください

友人・知人に島根県での勤務を希望される医師がおられましたら、是非ご紹介ください。ご紹介いただいた先生には、医療機関の情報等を提供し、U・Iターンを支援します。

#### 医師募集・地域医療視察ツアー参加者募集

島根県は県内で勤務いただける医師を求めています。全国どこへでも専任の医師が出張し、具体的な相談に応じます。また、地域医療の視察ツアー（県負担）を実施しています。お気軽にお問い合わせください。

#### 「赤ひげバンク」の登録者のみなさんへ

住所等に変更があった場合は、メールでお知らせ願います。

携帯からの問い合わせはこちら

〒690-8501 松江市殿町1番地 島根県健康福祉部 医療政策課 医師確保対策室

TEL 0852-22-6684 FAX 0852-22-6040

E-Mail [iryoun@pref.shimane.lg.jp](mailto:iryoun@pref.shimane.lg.jp)

ホームページ：

島根の医師確保対策

検索

